

DNA修復作用に高評価

ニュートリション・アクト

キャッツクロー「AC-11」拡販へ 樹皮から水抽出

ニュートリション・アクト(東京都港区、石川雅仁社長)は、南米産キャッツクロー樹皮から水抽出した美肌系機能性素材「AC-11」を二丁高まる一般食品分野へ販売を強化する。抗酸化素材とは違い、酸化ストレスによって損傷したDNAの修復を促進する作用を有しているのが特徴。

昨年3月の上市以来、そのメカニズムが評価され、昨年後半から今春にかけてアンチエイジングをコンセプトとした化粧品分野を皮切りに健康食品分野でも採用され、荷動きが活発化している。同社では、看板商品であるDNAを保護する抗酸化機能を持った「メロングリンデン」との相乗効果も期待できるところから、この2つの組み合わせを栄養補助食品や菓子、飲料などに拡販を進めていく。

AC-11は、キャッツクロー樹皮に含まれるカルボキシアルキルエステル(CAES)が有効成分で、80%の規格値を設定。アルカロイド・タンニン含有していない。もともとAC-11はスウェーデン・LUND大学の細胞・分子生物学の元教授(現在名誉教授)であるペロ博士が自身の研究成果によって見出した機能性成分。機能性としては、

①DNA修復促進機能②免疫賦活作用③アポトーシス調節機能(腫瘍細胞抑制効果)④抗炎症作用などが挙げられている。AC-11は抗酸化機能素材とはメカニズムが違って、年齢とともに衰えるDNAの修復を助ける機能を保持している。このことから、抗酸化素材との併用で、より効果的になることから、同社独自素材の「メロングリンデン」やコエンザイムQ10、白金チノロイドなどとの相乗効果が期待できる。

「メロングリンデン」については、ヴォークルシアン種という抗酸化に働くSOD(スーパー・オキシド・ディスムターゼ)を多く持つ南米産メロンから抽出した機能性素材。通常のSODは加齢とともに減っていくことから、メロングリンデンを採取することによって体内のSODを増やすことができる。結果的にSODがパワーアップし、美容、生活

い機能を発揮するものと考えられている。フランスではパリ大学等で、様々な機能研究が実施されている。同社では、メロングリンデンが体内の抗酸化パラシム能を上げてDNA損傷を抑制することも、抑制しきれなかったDNA損傷をAC-11が対応してDNA修復酵素を活性化することで、大きな相乗効果が得られるとして、健康食品分野のほか、一般食品にも積極的に市場開拓していく。1日の摂取目安量は単品でAC-11が通常250~350mg、メロングリンデン500mgであるが、2つを組み合わせれば、これらの量の半分でも機能発現の効果が期待できるとしている。

米国では多くのAC-11配合のサプリメントや化粧品が販売されており、すでにDNA修復促進物質としてFDAをファンクションクレームが認められたアンチエイジング素材となっている。

なお、AC-11の輸入元は伊藤忠商事、総販売元がニュートリション・アクトとなっている。

習慣病対策、活性酸素対策、ストレス対策など幅広い

